

風しん について

自分の健康のためにも、家族や一緒に働く人のためにも
風しんを予防しましょう

風しん患者は働く層に多く、職場でも風しんの予防対策が必要です。

2013年に風しんが大流行した時の患者は、男性が約70%で、そのうち約80%は、20～40代でした。



風しん とは	風しんウイルスに感染して、発疹などの症状が現れる。
流行のピーク	春から夏ごろ。
感染経路	飛沫感染が中心(感染した人の咳やくしゃみ、会話等で風しんウイルスを含んだ飛沫を吸い込むことによって感染)。
潜伏期間	感染してから16～18日間。 感染しても15～30%程度は不顕性感染(抗体はできるが症状は現れない)であり、その場合でも感染を周囲に広げてしまうことがある。 症状がでる前後の1週間は周囲の人にうつす可能性がある。
症 状	発疹、38℃前後の発熱、耳や首の後ろのリンパ節の腫れ、目の充血、咳、関節痛など。
治 療	解熱薬、鎮痛薬などによる対症療法(風しんウイルスそのものに対して効果のある薬は現在はない)。 多くの場合、3～5日間ほど自宅安静で治る。 意識障害やけいれんが起こる脳炎、血小板減少性紫斑病などの合併症を引き起こした場合は入院治療が必要。
予 防	風しんワクチンは1回接種で約95%、2回接種で99%予防できる。
先天性風しん症候群 とは	妊娠20週頃までに妊婦が風しんウイルスに感染すると胎児にも感染して、生まれてきた赤ちゃんが先天性風しん症候群を発症する可能性がある。 先天性風しん諸侯群では、難聴、心疾患、白内障、緑内障、網膜症、低出生体重、精神・運動発達の遅れ、血小板減少性紫斑病、肝脾腫などが現れる。

◆風しんの予防接種を検討した方がいい人は？

- 風しんワクチンを受けてない方
- 風しんにかかったことがない方
- 上記のどちらも不明な方



◆風しんの予防接種を受けていますか？

風しんの予防接種を受けているかどうかは、生年月日により異なりますので、下記の表を参考に確認しましょう。

風しんワクチン接種の移り変わりとし年月日

生年月日	男性	女性	備考
1962年4月1日生まれ以前	接種なし	接種なし	男女とも定期の予防接種を受ける機会がなかった。
1962年4月2日～1979年4月1日 生まれ	接種なし	中学生の時に 集団接種 (1回)	女性は中学生の時に学校で接種。
1979年4月2日～1987年10月1日 生まれ	中学生の時に 個別接種 (1回)	中学生の時に 個別接種 (1回)	男女とも接種の対象となったが、 実際に受けた人は10%未満の年 もあった。
1987年10月2日～1990年4月1日 生まれ	幼児期に 個別接種 (1回)	幼児期に 個別接種 (1回)	接種率はあまり高くなかったと推 定される。
1990年4月2日生まれ以降	個別接種 (2回)	個別接種 (2回)	2回接種の年齢は生年月日により 異なる。

◆風しんウイルスに対する抗体がありますか？

医療機関での血液検査で、抗体の有無を調べることができます。

抗体の有無を調べる目的での検査は健康保険が適用されませんが、自治体によって費用の助成を行ったり、無料にしている場合もあるので、居住地域の保健所にご相談ください。

◆海外渡航する場合は？

厚生労働省検疫所では、「海外渡航で検討する予防接種の種類目安」として風しんの予防接種を受けることを推奨しています。
海外で感染し、帰国後に発症した例もあります。